

新婦人しんぶん

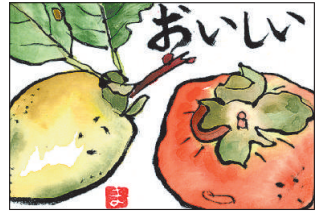
新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです。あなたも一緒に

今週の紙面

- 2面 女性ニュース／談話
- 3面 読者のページ／まんが／乱楽パズル
- 4・5面 医療崩壊ゆるさないたたかいを／女性 働く／ホット／
- 6面 食事情／大軍拡
- 7面 新婦人の活動／主張／母の歴史



広島・廿日市市 河内真由美(68)

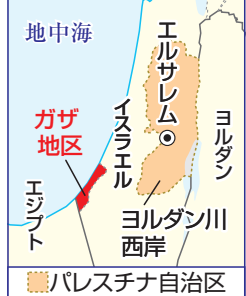
ガザに平和を 停戦守れ

イスラエルによるガザへの大規模軍事攻撃開始から2年。徹底した破壊と飢餓でガザの人々の状況が極限に達し、「虐殺やめよ」「直ちに停戦を」と世界各地で市民が声を上げるもと、10月10日、停戦が発効しました。2023年10月末からイスラエル大使館前で抗議のスタンディングを続けてきた、小説家の柳広司さん。10月9日、ハマスとイスラエルが停戦合意との速報が流れるなか、思いを聞きました。

なぜ立ち続けるのか

や子ども、赤ん坊を殺し続けているからです。虐殺をおこなっているのはかつて、ホロコースト(民族虐殺)を経験したユダヤ民族国家のイスラエル。何が起きているのか理解することができず、まるで悪夢の中にいるようでした。いてもたってもいられず、イスラエル大使館前に向かったのが最初です。路上には

先ほど、中東の衛星放送局アルジャジーラで停戦合意が報道され、現地ガザからの映像が入って



も今日明日、爆撃や銃弾で死ぬ子どもはいない、そのことを喜びたいです。なぜ、立ち続けるのか。イスラエルがガザの女性

小説家

柳 広司 さん

声を上げ続ける

<ガザ危機をもたらしたもの>

今回のガザ危機を招いた直接の原因は2023年10月7日、イスラム組織ハマスの奇襲攻撃に、「報復」としてイスラエルがガザ地区全土への攻撃を開始したこと。根本には、イスラエルの占領問題がある。アラブ人の土地を奪って建国したイスラエルは1967年の第3次中東戦争以降、パレスチナのガザ地区及びヨルダン川西岸を不法に占領。特にガザは、2007年以降厳しい隔離と封鎖のもとで「天井のない監獄」と呼ばれるほど人権も自由もない状況に置かれている。

即時停戦を求める声を上げている人たちがいて、はじめて、ようやく、息がつけました。ガザ虐殺はこれからの



停戦のニュースが流れた日もイスラエル大使館前に立った

歴史の教科書に必ず記載される出来事です。2年もの間、目の前で人が殺されていくのをなぜ黙って見ていたのかと、未来の子どもたちに聞かれることになるでしょう。その問いにこたえられるのかという思いで、抗議を続けています。犠牲者は確認されただけで6万7千人超。瓦礫の下に埋もれたままの人たちも大勢いて、実際には8万人を

自分にできることを

超えている。その人たちにに対して自分は死ぬまで、救えなくてごめんな

さい、と言いつけるのだろうと思います。

本来小説家というのは、正しい側と正しくない側の両方に足を置いて世界をつくっていくのですが、イスラエル大使館前に立つている限り、どうしても自分が正しいと思う側に両足を置かなければならない。小説家としてそれは醜態です。それでも続けなきゃいけない。かわった以上、やめるわけにはいかない。まさか

こんなに長く続くとは思っていませんでしたが。〈2面へ〉

やなぎこづじ 1967年生まれ。2001年、『廣作「坊っちゃん」殺人事件』で朝日新人文学賞、09年、『ジョーカー・ゲーム』で吉川英治文学賞新人賞と日本推理作家協会賞受賞。『風神雷神』『アンブレライカブル』『南風に乗る』『パンとペンの事件簿』など著書多数。

STOP!! ジェノサイド 各地で



くらしの要求もかかげて。10月13日(新潟支部)

